

ジャパンエコトラック公式アンバサダー

パッシュファミリー

メンバー代表

辰野 勇

直感に従い 旅を続ける

辰野 本日は、世界中を自転車で旅するパッシュファミリーにお越しいただきました。旅の途中で生まれた2人の娘さんとともに、現在は家族4人で、定住しないノマドライフの旅を続けておられます。スイスのご出身ということで、最初は夫婦で旅に出られたのですか。

グザヴィエ はい。2010年から旅を始めました。それまで私は建築デザイナー、妻のセリヌは人類学者として文化を研究する仕事をしていました。もともと私が、スイスから地球の裏側のニュージーランドまで、人力で行ってみたいという夢を持っていたんです。自転車旅の



左からグザヴィエ、セリヌ、フィビー、辰野、ナイラ

もあるわけですね。
セリヌ そういうことになりました(笑)。

グザヴィエ それから1年後、私たちは夫婦として、スイスからニュージーランドに向かって自転車を出発しました。ヨーロッパ、中東、シベリア、モンゴルなどを巡り、ユーラシア大陸を横断しながら旅をしました。

辰野 ニュージーランドにたどり着くまでどれくらいかかりましたか？

グザヴィエ 5年です。はじめは3年くらいの予定だったので

ですが、2013年に長女のナイラが産まれたのです。

辰野 旅を続けながら出産をされたというのはすごいことです。
セリヌ 大変さもありましたが、スイスに戻ることは考えませんでした。妊娠が分かったときは嬉しかったです。ヒマラヤで5500m付近をトレッキングしているとき、エヴェレストを見上げながら「あなたはもうじきパパになるのよ」って、彼に言いました。

その後も妊娠7カ月になるまで、ネパールやバングラデシュを通過して自転車の旅を続けて、マレーシアのペナンという小さな島に滞在して出産することになりました。ここには水中出産を扱えるドクターがいたんです。

辰野 水中出産を扱える医師は



旅をしながら育ってきたナイラ(右)とフィビー(左)

あまり多くはないのでしょうか。
セリヌ そうですね。アジア全体でも数名くらいだと思います。医療的なハードルもありますが、女性は水中に浸かっているのが体が動かしやすく、穏やかに出産できました。2017年にはフィビーもそこで出産しました。良い選択ができたと思っています。

辰野 ナイラちゃんが生まれたあと、今度は家族3人の旅が始まるわけですね。
グザヴィエ はい。産まれてから5カ月経った頃に自転車の旅を再開しました。マレーシアを出てカンボジア、中国、台湾、オーストラリアの砂漠を経て、2015年にニュージーランドに着きました。

辰野 ニュージーランドへの旅の後、スイスに一時帰国されて、翌2016年から4年間、地球の北側をめぐる旅に出られましたね。日本各地も回られていますか？

旅での出会い

辰野 ニュージーランドへの旅の後、スイスに一時帰国されて、翌2016年から4年間、地球の北側をめぐる旅に出られましたね。日本各地も回られていますか？

セリヌ 各地で出会う人が、親切で礼儀正しい方々ばかりで、本当にお世話になりました。なかでも小林さん(南富良野まちづくり観光協会前理事)の顔がすぐに思い浮かびますね。私たちは北海道から旅をスタート

経験があったわけではないのですが、イタリアでの登山中に出会ったサイクリストたちに、いろいろと刺激を受けて、自転車で行く決めていたんです。

辰野 その旅の夢に、セリヌさんが加わるわけですね。
セリヌ そうです。グザヴィエと出会ったのは2009年、私が27歳の頃で、スイスアルプスのヴァルド・バニユという小さな町の音楽祭でした。そこで色々話しているうちに、彼と意気投合したんです。私も研究で海外各地に行ったことがあったので、遠い国々の話にワクワクしましたし、彼が夢を抱くだけでなく、実際に叶えようと行動しているところにも惹かれて、私も一緒に「ジャンプ」してみたくなりました。

辰野 旅に出るきっかけでもあり、お二人が恋に落ちた瞬間で

して、富良野をサイクリングしていました。その日は土砂降りの雨になったので、宿泊できそうな場所を探していました。しかし、観光のハイシーズンで、どこも満室でした。そんな私たちを見て、彼が「うちに何泊でも



妊娠7ヶ月のセリヌ、ペナンにて

カナダ・アルバータ州にて、荒野を自転車で進む





SEA TO SUMMIT 2023 皆生・大山大会にて

していいよ」って声をかけてくれたんです。

辰野 すばらしい出会いですね。その後たまたまSEA TO SUMMITの大会で東川町にいた私のところに、小林さんが紹介しにきてくれたのでしたね。以来、パッシュュさんにはSEA TO SUMMITに出たいだったり、2019年にはチャレンジ・アワードを授与させていただいたりなど、その後に繋がる嬉しいきっかけとなりました。

グザヴィエ 私たちはいつも偶然の出会いに助けられています。最初はトラブルに思えることが、次の出会いや機会に繋

口もあれば問題ありません。将来のために小額ですがスイスの公的年金も納めています。

セリーヌ 娘たちには、おもちゃをたくさん買い与えることはできません。そもそも自転車に載せられる荷物の量は限られますからね。でも、娘たちは石や木など、自然にあるものを使って、とてもクリエイティブに遊びます。それに、子供たちの五感を活性化するという面でも、自然の中で遊ぶことには効果があると私たちは考えています。コンクリートの部屋の中では、身の周りのものしか見えませんが、森の中では遠くから近くまで、いろんな方向にあるものを見たり、物音を聴いたりします。これらの反応を司る脳の神経回路は、子供の頃に刺激しておかないと、大人になってから身につけるのが難しいようです。

辰野 生きる力を育む上でも、幼少期の自然体験はとても大事ですね。養老孟司先生（東京大学名誉教授）も、小学校でやるような勉強は、後になってからでも挽回できるので、小さい頃は積極的に外に出て、自然のなかで遊ぶべき、と言っておられます。

がつていくことが多いんです。

カナダのユーコン州を旅していたときも、目指していたテントサイトにやっと到着できたと思ったら、そこにグリズリーと2頭の小熊の先客がいました。留まることは危険でしたので、そっとその場を離れ、先住民が暮らす近くの集落に行き、空き家のデッキを借りました。翌朝、オーナーの方に挨拶に行くと、「空き家を冬の間、世話してくれる人を探しているんだ」と。コロナ禍で国をまたぐ移動がしにくい時期でしたので、私たちにってはありがたい話でした。寒い冬の間に快適に過ごせる場所にありつくことができたのです。クマたちのおかげで（笑）。

旅を続ける

「お金と時間」

辰野 さて、ここまでは旅のお話を中心に聞かせていただきましたが、多くの方が興味を持つであろうことを代弁させていただきます。それは、旅をしながら、どのように生計を立てているのでしょうか？ ということです。モンベルでもクラブフアンドを通じて、さまざまな支援をさせていただいていますが、それもごく一部です。

グザヴィエ 旅を続けていくには確かにお金が必要ですから、私たちはいくつか仕事をしています。一つには、スイスの新聞

や英語圏のサイクリング雑誌、子育て雑誌に、私たちの体験などをテーマにした記事を提供しています。妻が文章、私が写真担当です。それから、各地で講演を依頼されることも多いので、そこで寄付を頂くこともあります。あと、依頼があればWEBを通じて「コーチング」を行なうことも多いです。

辰野 どのような内容のコーチングをされるのですか？

セリーヌ 大きく分けて二つあります。一つは、私たちのように、世界を旅してみたいという人たちに向けて、旅のプランニングやさまざまなノウハウ、装備などについてアドバイスしています。もう一つは、個人のマイ

ンド的な部分で、「会社を設立したいけど不安がある」、「このまま夢を追いつけていいのだろうか」といったさまざまな不安や恐れに向き合うためのコーチングをしています。私たち自身、旅を通じて、さまざまな不安や恐れに対処してきましたので。

辰野 お金や生活への不安についても、そのなかのひとつです。ね。

グザヴィエ はい。私たちは毎週外食に行くような余裕はありませんが、シンプルなライフスタイルを選択しているので、不安はなく幸せに過ごせています。1カ月の予算で言えば、家族1人あたり300ユーロ（※1ユーロ約155円）、家族で1200ユー



その場にあるもので、2人の遊びを作ってゆく

私たちには、たくさんのお金のかわりに、たくさんのお時間があります。今は子供たちと一緒に多くの時間を過ごすことが最も大事だと考えています。直感が告げることに従って生きること、お金にも困らず、自由な時間を持っています。もし私たちがお金を追いかけてしまえば、お金も時間も逃げてゆくことでしょう。

辰野 モンベルでも、売上を追いかけるのではなく、常に正しい行いをするのを第一に考えています。正しい行いをしていれば、売上も自然と伴ってくるものだから。

＊

辰野 2010年から旅を続けられてきて、13年以上が経ちましたね。今後も家族4人で旅を続けるのかなど、将来的にはどんなイメージを持っていますか？

グザヴィエ 今、フィビーは6

歳、ナイラは10歳ですが、私たちの家族の誰かが、今のような生活に満足できなくなれば、何かを変える必要があります。そのタイミングは、ひよっとするとあと半年以内かもしれないし、10年後になるかもしれない。でも、今実際に問題が起きているわけではないので、先のことをあれこれ考えてもあまり意味がありません。そもそも私たちは、今晚どこに寝るのかすら、決めていないのが日常ですから（笑）。今はこのスタイルが一番幸せだと考えて、旅を続けていきます。

辰野 今を幸せに生きる、過去は振り返らない。私も大事にしていることです。

さて、これからはパッシュュファミリーの新たなステージ、ジャパンエコトラックスの旅が始まります。公式アンバサダーとして、日本各地の人たちや素晴らしい景色との出会いを楽しんでいただければ幸いです。

セリーヌ とても楽しみです。人力で旅をすることの豊かさを、皆さんと共有していきたいです。

辰野 本日はありがとうございました。



自然に囲まれて体を動かし、よく学ぶ。パッシュュ家の教育方針

セリーヌ 娘たちも旅を通じて各地の文化や人と出会ったり、自然の中で体験したこと、非常に多くのことを学んでいます。2人は学校には通っていませんが、教科書を読むよりも何倍も豊かな学びを体験から得ています。たとえば砂漠を横断する経験からは、距離の計算、方角、時間、気温や水の管理など、実践を通じて理科や算数も学べるんです。